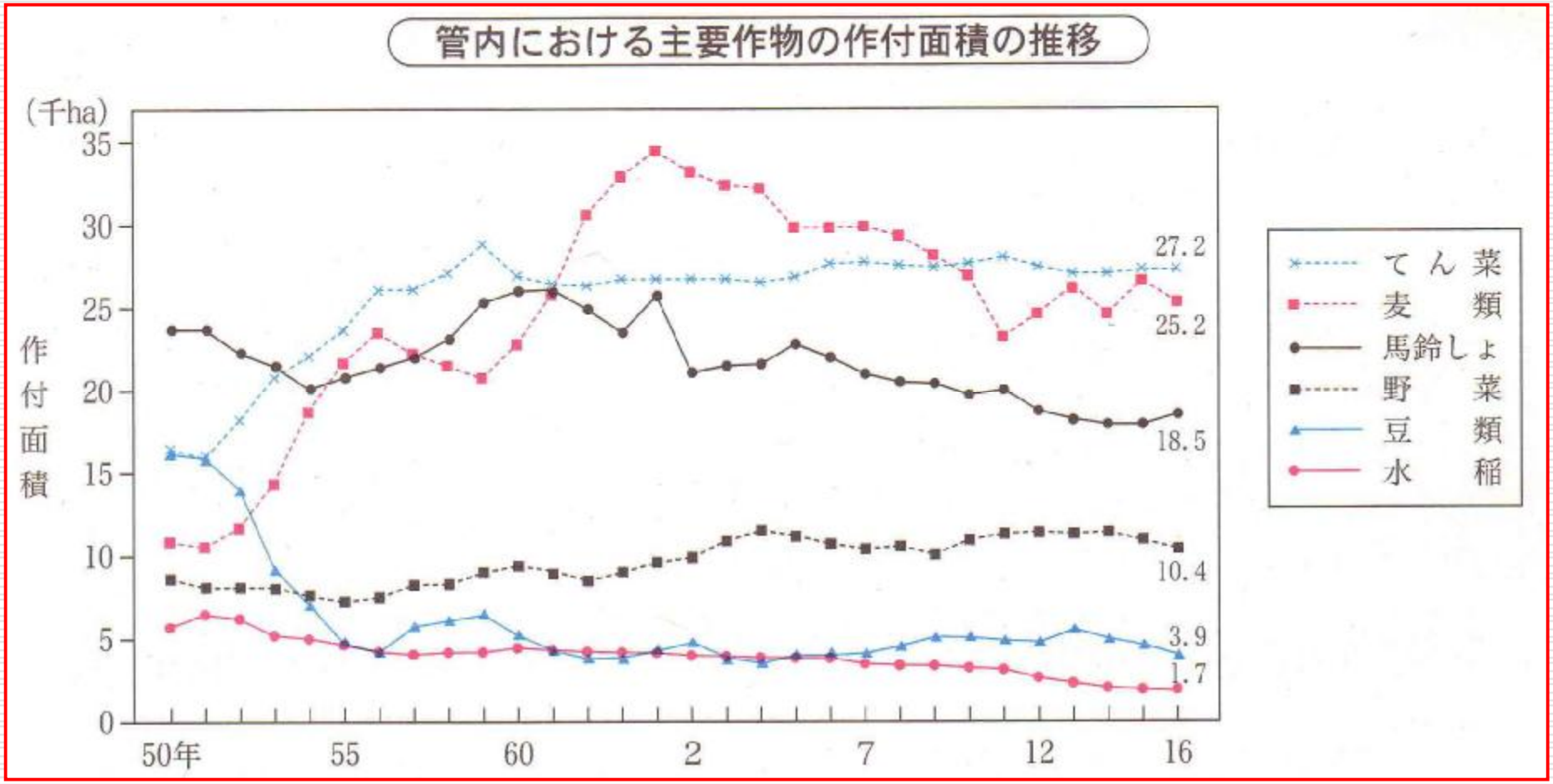
網走支庁管内の農産物



□昭和50年代前半は馬鈴しょ・てんさい・豆類を主体とした経営。豆類は収量で不安定要素が大きいことから作付けが減少し、小麦が増加して現在に至る。

小麦豆知識

- イネ科に属する穀物。世界で最も生産量が多い。
- 収穫された種子は製粉され、小麦粉として使われる。
- パン、中華麺、うどん、菓子、パスタなどの原料となる。
  用途により求められる特質が異なる。(強力粉･中力粉･薄力粉･ﾃﾞｭﾗﾑ)
- 小麦の特徴
  - ○自給率が低い。
  - ●輪作体系や地力の維持に不可欠。
  - ●非常に省力的(大豆の1/3、馬鈴薯の1/5)。
  - ●他作物と労力競合し難い。
  - ●水田農家でも栽培可能。
  - ●多収ほど儲かる。(生産費は約6.5俵)
  - ●輪作に組込み難い→連作しがち
  - ●適期収穫が必要

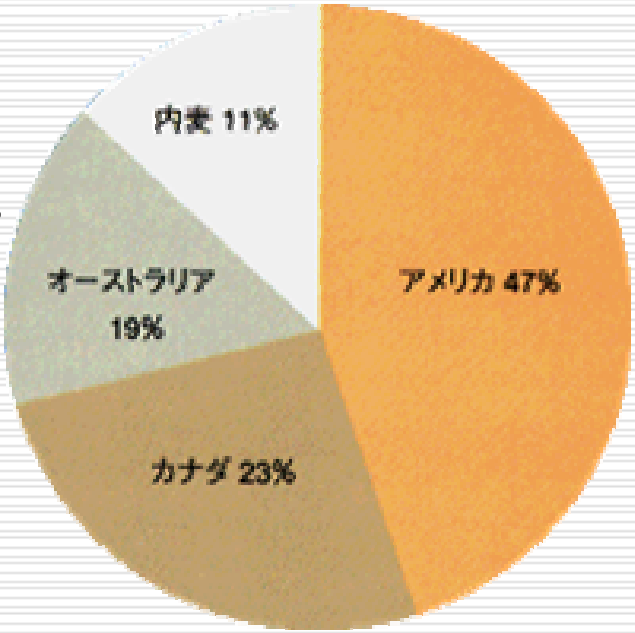
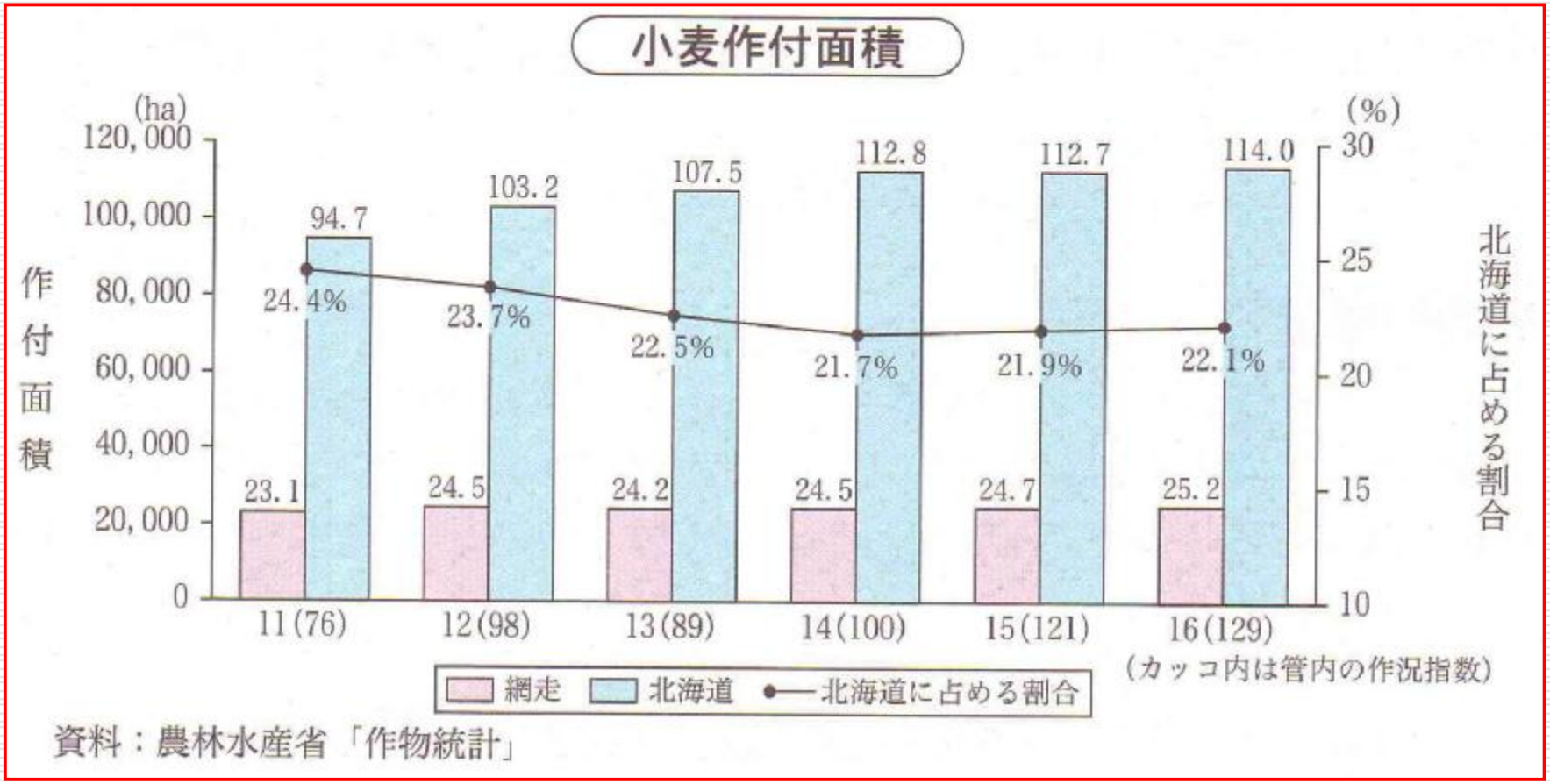


図　外麦輸入量と国内麦生産割合(1996年)

小麦の最近の動向

- 小麦の国内需要は620～640万t、国民一人あたり32kg程度。
  道内で54万t、網走支庁管内で15万tの生産(H17)
- 自給率はＨ７に7%まで低下、水田農業での本作化の推進などにより14%にまで回復(H16)
- 道産小麦需給の状況　秋まき拮抗・春まき大幅な供給過少
  春まき小麦　反収が低いため収益性が劣り作付け伸び悩み
- 道産小麦の品種
  秋まき小麦　「ホクシン」約９割　うどんなどめん用
  新品種　　新品種「キタノカオリ」はパン用で今後に期待
  春まき小麦　「ハルユタカ」「春よ恋」　パン用
- 道産小麦の課題
  地域間や年次間で品質、収量の格差がある　不安定である
  肥培管理の徹底、適期収穫、乾燥調整体制の強化が必要

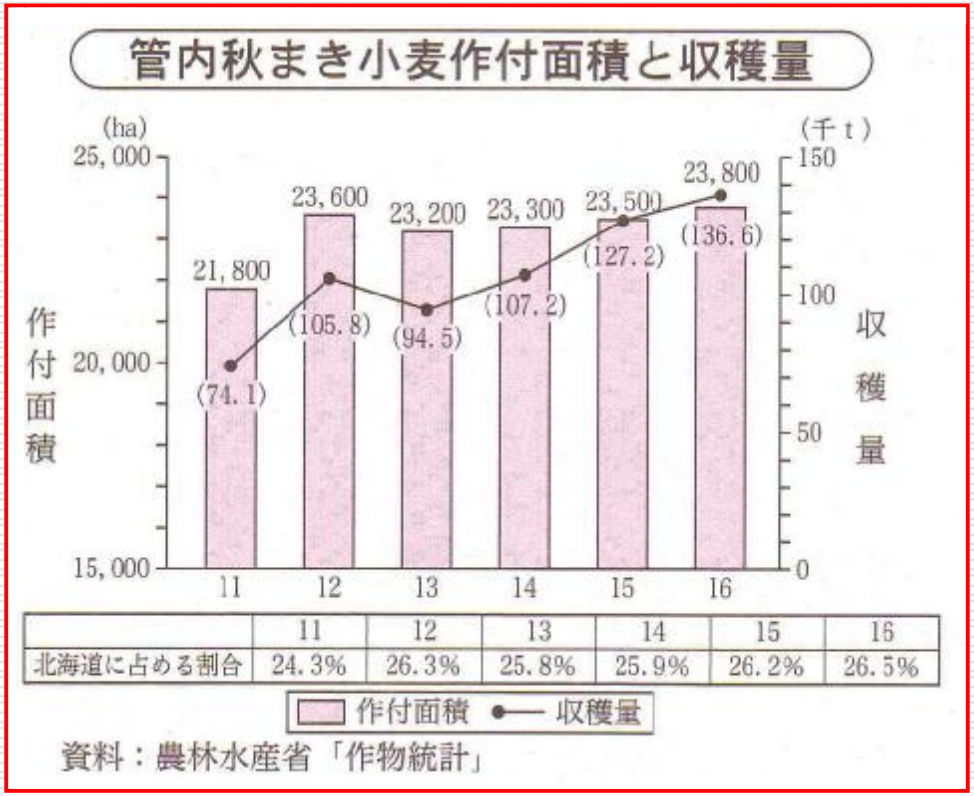
網走支庁管内の小麦作付け面積



□網走支庁管内の小麦の作付面積は25,200ha、全道の1/4弱を占める。　(H16産)

□東部耕地管内では15,323ha、斜里2,750女満別2.430小清水2,410網走2,390清里2,260ha

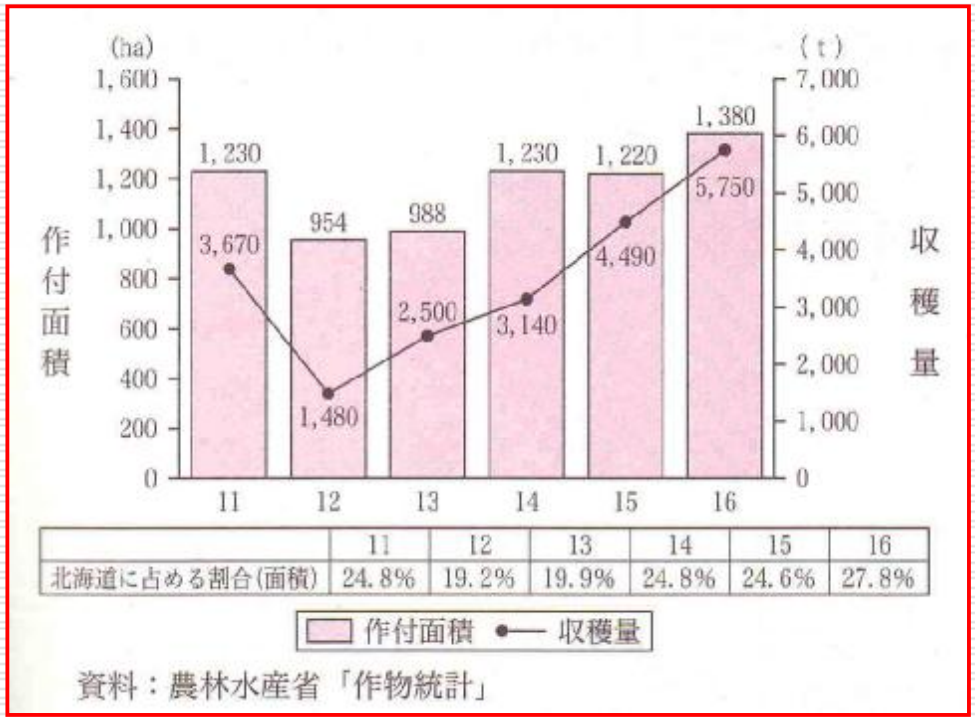
管内の秋まき小麦と春まき小麦の推移



	11	12	13	14	15	16
北海道に占める割合	24.3%	26.3%	25.8%	25.9%	26.2%	26.5%

資料：農林水産省「作物統計」

春まき小麦作付け面積と収穫量



	11	12	13	14	15	16
北海道に占める割合(面積)	24.8%	19.2%	19.9%	24.8%	24.6%	27.8%

資料：農林水産省「作物統計」

□秋まき小麦の作付面積はH12以降横ばい、収穫量は増加。品種は「ホクシン」がほとんど

□春まき小麦の作付面積は増加傾向、収穫量は大幅な増加。品種は「ﾊﾙﾕﾀｶ」から「春よ恋」

□二条大麦（ビール麦）は1,780ha(管内)、内1,390haが網走市　(H16産)

秋まき小麦の特性

植物学上の分類	イネ科の越年、長期間冬の寒さにあわなければ穂ができないもの
原　産　地	中央アジア・コーカサス地方
用　　途	うどん等のめん類が主 一部パン用

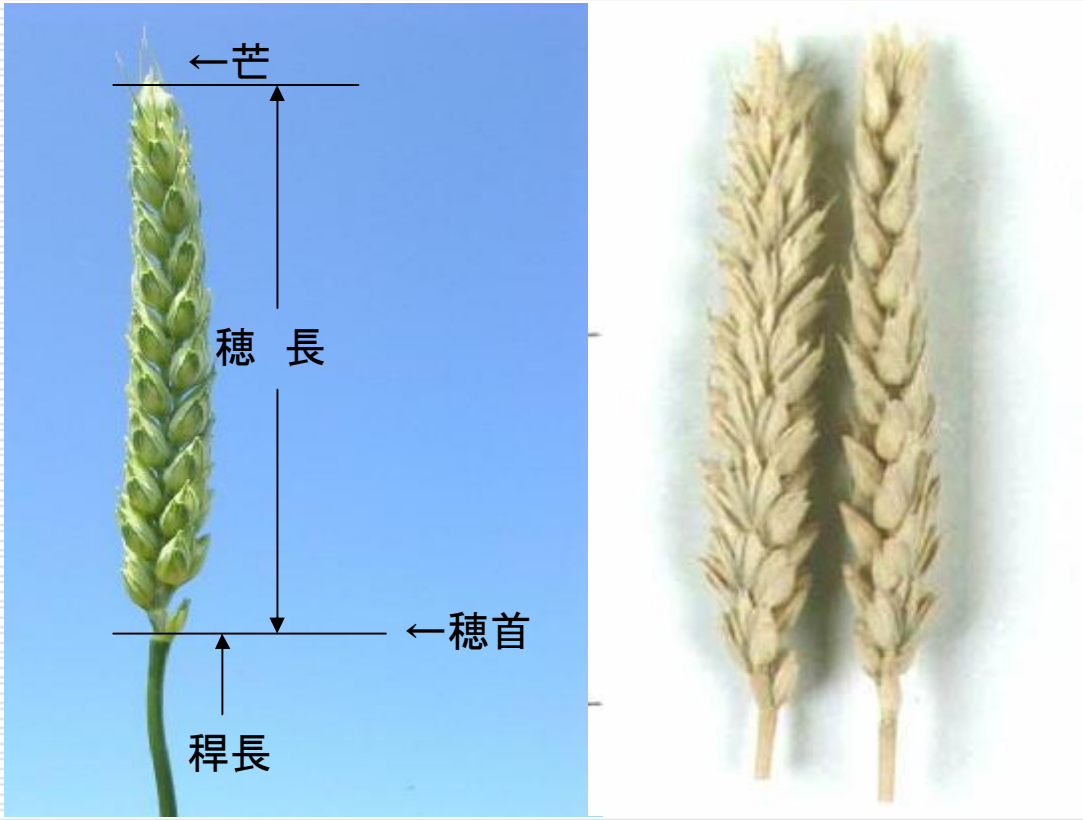


図　秋まき小麦の穂（左：出穂後の穂、右：成熟期の穂）
芒が春まき小麦よりも短い。

秋まき小麦の経営目標

Ⅰ収量目標

土壌区分	kg/10a
低地土	400～550
泥炭土	400～550
火山性土	400～550
台地土	400～520

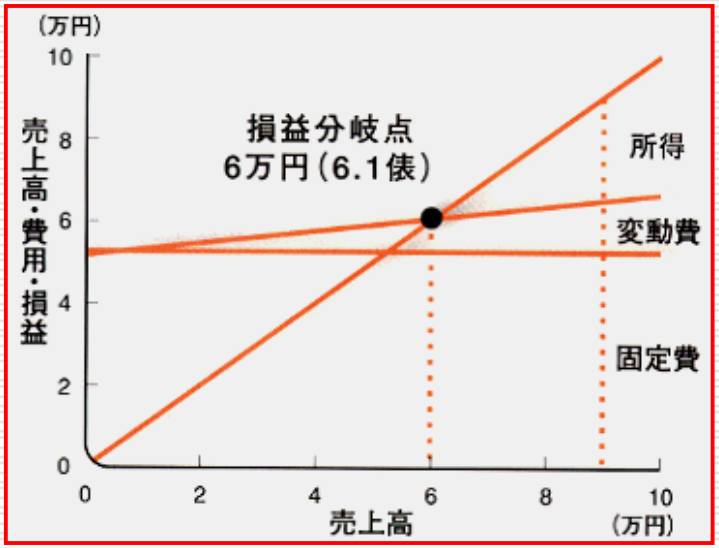


図　損益分岐点図

6.1俵以上の収量から所得が生じる

Ⅱ所得目標　北海道農業生産技術体系から

収量	480kg／10a
単価	157円／kg
粗収益	75,360円
肥料費	9,329円
種苗費	2,333円
農薬費	3,577円
直接費計	32,508円
粗所得	42,852円
労働時間	1.48時間

※　減価償却費や流通経費は含まれない。約２万円

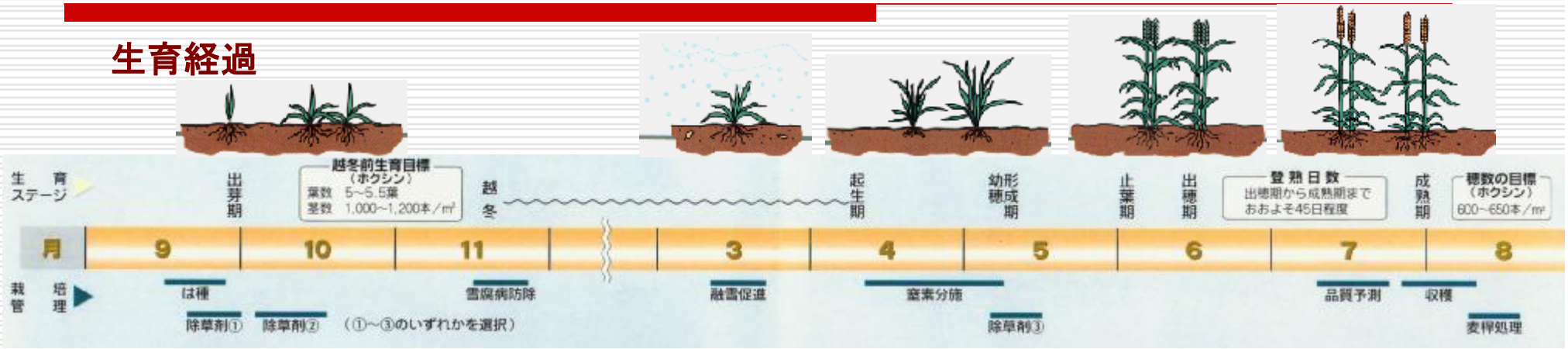
Ⅲ品質目標

●適正タンパク含有率：10～11%

●粉の明るさ：　明るいほうが望ましい。

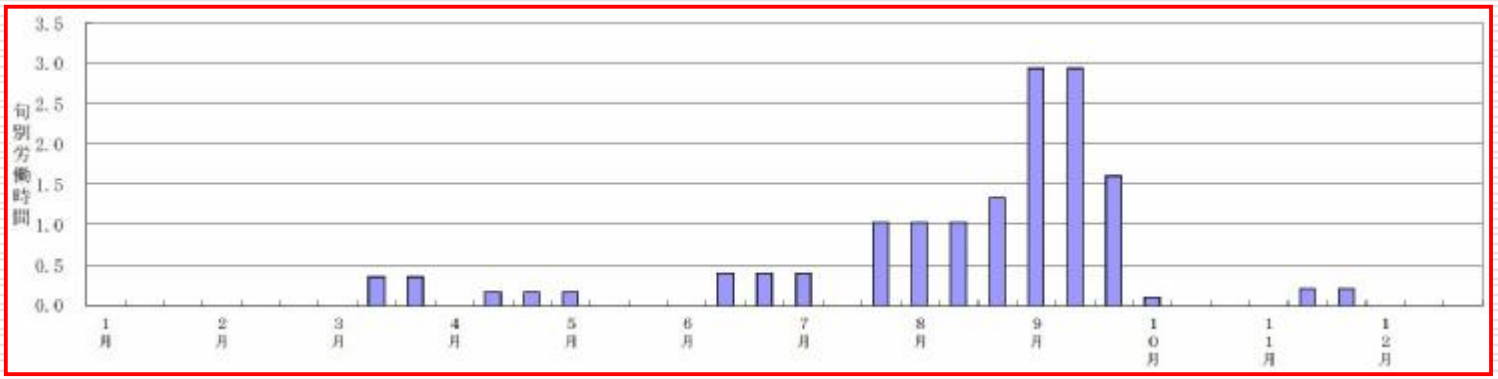
秋まき小麦の栽培ごよみ

生育経過



耕起　砕土整地(８月下旬～９月中下旬)

月旬別労働時間



小麦づくりのポイントⅠ　播種前

１.ほ場の準備

■**排水対策**

・明渠及び暗渠の整備、心土破砕など。ほ場の排水改善、融雪水が残らぬよう。

■**輪作の実施**

・４年以上の輪作を実施する。

■**有機物の投入**

■**土壌診断に基づく土壌・施肥管理**

・ほ場のpH(H2O)は、5.5～5.7程度とする。(輪作の中で石灰を使用する)。

・過剰な施肥は無駄なだけでなく、作物を倒伏させたり、タンパク含有率を適正以上に高める。

２.肥料の量

■**窒素**

・基肥は４kg／１０ａとする。

・表の数値の残りを翌春に分肥する。

(最近は土壌診断に基づく詳細な施肥量が普及センターから指導されている)

施肥量　（単位：kg／10a）

土壌区分	窒素	リン酸	カリ
低地土	8～12	12	9
泥炭土	7～8	14	10
火山性土	10～12	14～15	9～10
台地土	10～11	14	9

小麦づくりのポイントⅡ　播種

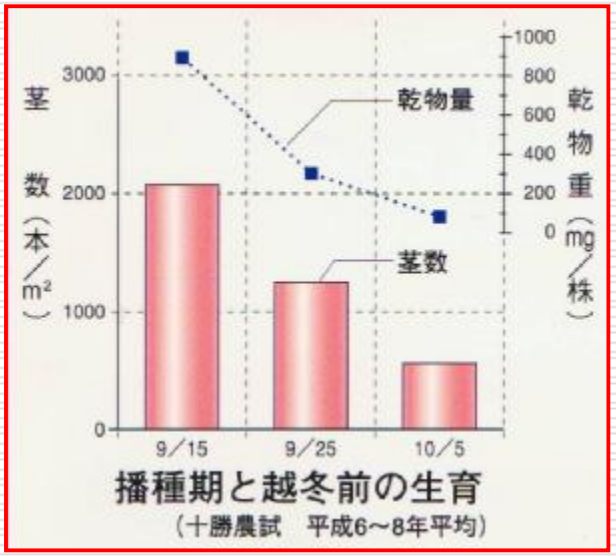
３.は種期

■**適期は９月２０日前後**

秋の気温が低い山麓地域や積雪の早い地域はやや早めに

■**遅れると・・・・**

・生育が遅れ、穂数、千粒重、容積重が減り減収する。
・タンパク含量が上昇し粉色が劣化する。
・成熟期が遅れ、品質の低下を招く。



４.は種量

■**播種期の10日の違いは生育量で大きな差。**

■**適期では９～１０kg/10a**

・適期より速いと過繁茂、倒伏の恐れがあるので、播種量を6～7kg/10aに減らす。
・晩播の場合は、12～14kg/10aと播種期により加減する
・覆土の厚さは２.５～３㎝。

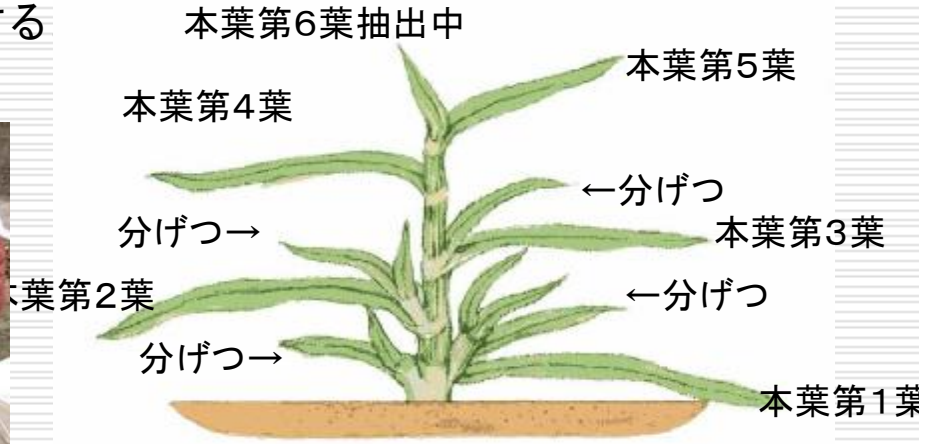


図　越冬前の理想的な姿